

政策目標4 気候変動に対応できるまち

施策⑯家庭・事業者の省エネルギーの推進（p48）

【評価できる点】

- ・具体的な成果とともに課題が明確に示しており良いと思う。
- ・家庭や事業者に対する省エネの普及啓発が継続的に行われており、身近な行動変容につながる取組が着実に進められていると感じた。
- ・「ちがさきエコネット」において、SDGsキッズクイズのリニューアルを行い、ステップごとに修了書の発行、すべて達成すると賞状をいただけ、楽しみながら環境問題を学ぶことができる工夫（ヒント・解説）がされていて評価できる。
- ・「ちがさきエコネット」の登録数が増加（104世帯）したことは良いと思う。
- ・「みどりのカーテン用の苗を配布や環境学習会（出前事業）はいいと思う。
- ・ゴーヤの苗の配布（187）をし、みどりのカーテンにて成長記録の紹介、エコクッキングレシピにて作り方などを紹介され、楽しみながらエコ活動に取り組んでいることは評価できる。
- ・図書館などの自治体関連施設や企業組織との関係を作り、独自の情報交流やイベントを展開している。
- ・湘南エコウェーブ事業活動にて、市民向けエコクッキング・エコエコカードゲーム、事業者向け脱炭素経営の取り組まれたことは評価できる。
- ・さまざまな角度からの情報発信の機会を作り、発信を行っている。
- ・市民の方の目に触れる機会の場所を通じて、パネル展示、デジタルサイネージにて情報発信されていて評価できる。
- ・市内の公共施設に EV（電気自動車）用の充電設備を導入し、環境に優しい移動手段と災害時のレジリエンス強化につながるなど、良い取組と評価できる。
- ・団体、事業者向け太陽光発言設備設置補助事業の周知を図っている。
- ・未来を担う子どもたちに向けた小中学校での環境出前講座の実施は、早いうちから環境について学ぶことでエコに関心を持って行動してもらえる意識の醸成につなげる取組は評価できる。
- ・出前講座などを通じた脱炭素の啓発機会を作り、啓発事業を行っている。

【今後検討すべき課題】

- ・施策指標⑤「省エネ家電」を「導入済」の割合（市民アンケート）を目標値に近づける取組が必要である。
- ・施策指標⑦廃棄物処理に伴う温室効果ガス排出量の市民1人1日当たりの排出量を目標値に近づける取組が必要である。
- ・施策指標⑦廃棄物処理に伴う温室効果ガス排出量の市民1人1日当たりの排出量について、R5年度：171.2g-CO₂が、R6年度：232.9g-CO₂と増加（+61.7）に至った要因について、確認しておく必要があると思う。
 - ・ライフスタイルの転換をもう少し具体化し、それぞれの行動例に削減量を想定し、気候変動を緩和するための省エネルギー予測値を算定して、施策として取り組んでいる啓発の効果を具体化する必要がある。
- ・省エネの必要性が浸透しつつある一方で、実際の行動変容につながるような情報発信や支援策の充実が期待される。
- ・脱炭素行動やライフスタイルへの転換の必要性を認識してもらうために、どのような行動をとるべきか、もう

一歩踏み込んだ課題案や具体的な例を示すのも一考かと思う。

- ・パネルの掲示やサイトに載せるだけでは見てくれる人が少ない。

施策⑪公共施設の省エネルギーの推進（p52）

【評価できる点】

- ・政策指標②市域の温室効果ガス排出量で現況値が激減した。
- ・エネルギー消費量、温室効果ガス排出量のそれぞれにおいて、市の努力と考えられる C-EMS にもとづいた数値減少の傾向が示されている。
- ・省エネ診断により設備の運用改善をはかり、省エネの推進にむけた仕組み構築に努力している。
- ・C-EMS の活用により、職員一人ひとりが省エネに対して意識を持ち、業務を通じて取り組んでいる点、組織全体で取り組まれていることは評価できる。
- ・市が率先して省エネルギー化に取り組む姿勢が示されており、市民への波及効果も期待できる。
- ・公共施設7施設において、みどりのカーテンを実施されたことは評価できる。
- ・公共施設40施設に、照明のLED化の導入、4施設へ省エネルギー診断の診断により設備機器の運用改善によりエネルギー消費量削減の取組は評価できる。
- ・カーボンニュートラルトピックスNo.5発行により、市内で取り組まれている内容を周知されたことは評価できる。
- ・環境配慮活動に対して、優良な取組をされた指定管理者へ「エコ管理賞」の表彰と、庁内部署で環境負荷低減効果が大いなものや事務事業の効率化、経費削減効果の優れた取組に対して「エコオフィス賞」を表彰されたことは評価できる。廃棄予定となる消防ホースを再利用した重石を活用して、ごみの集積所のカラス除けネットを固定するなど、ごみの飛散防止を図る取組はとても良いと思う。
- ・子供用の衣類、おもちゃのリユースも良い。
- ・設備の効率的・効果的な運用・設備更新により、省エネの推進に努力している。
- ・おおむね良いと思う。

【今後検討すべき課題】

- ・夏の酷暑が増す状況、エネルギー消費量等をどう削減していくか。
- ・公共施設における省エネルギー推進は、温室効果ガス排出量削減にもつながり、さらなる脱炭素化に向け再生可能エネルギーの導入が不可欠になる。また、太陽光発電設備の導入や、合わせて蓄電池との併設により、災害時の自立電源としての機能強化も図られ、市民の安全・安心にも貢献でき地域全体のレジリエンス向上にも繋げられると思う。
- ・成果につながった LED 化、エコドライブだが、蛍光灯から LED へ移行する際にいらなくなった蛍光灯の処分方法を市が先頭に立って行ってほしい。
- ・エコドライブの効果については、どのようなアクセルの踏み方が良いかなどを図で示したレリーフを発行すれば、今後の市の PR になると思う。
- ・設備更新にはコストも伴うため、効果を検証しながら計画的に進めていくことが重要と感じる。
- ・新施設の開設や新たな設備導入について、従来トレンドにもとづく期末目標が不成立となる可能性があり、

これへの対応・対策が求められる。

- ・地球温暖化の市への影響が正確に予測できないことも加えて、今後の目標達成が困難になることを想定した、新たな「取組成果」の設定（成果をどのように評価するかの検討）が求められる。

施策⑱再生可能エネルギーの適切な導入の推進（p54）

【評価できる点】

- ・市内の中小企業等を訪問し、支援メニューの紹介や啓発活動を、県と連携して継続的に行っている。
- ・施策指標①市域の太陽光発電設備導入件数が、昨年度より増加（396件）している点は、再生可能エネルギー普及に向けた県や中小企業等へ訪問され、様々な広報媒体との連携を行った成果によるものと評価できる。
- ・太陽光発電の支援メニューの普及などで、施策指標①小規模設備の導入が増えている。
- ・Instagram やちがさきエコネットでの、国や県の支援策の補助金情報を発信されたことは評価できる。
- ・エコネットや多様な情報ツールを用いて、情報発信、啓発活動を展開している。
- ・再生可能エネルギーの導入にむけて、補助金メニュー（支援策）をとりまとめて発信している。
- ・太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーについて、市民や事業者への情報提供を行いながら、導入の促進に取り組んでいる点は評価できる。
- ・評価としては、現状維持とした感があり、あまり前向きなコメントは書けない。

【今後検討すべき課題】

- ・対話重視は賛成である。対話の機会を市の公報誌で募って頂ければと思う。
- ・事業評価の「課題」にも記載がある通り、人々の行動変容につながる啓発事業をさらに積極的に推進する必要がある（対話による理解と行動の推奨は良好な取組であり、ここを工夫して推進してはどうか）。
- ・太陽光発電設備導入の件数は増加しているが、事業者への導入が伸び悩んでいる。
- ・市民や事業者にたいして、再生可能エネルギーを適切に導入してもらう具体的な施策が必要となっている。
- ・事業者や家庭において、いかに再生可能エネルギー電気への切り替え促進を図っていくことが大切と思う。
- ・導入拡大に当たっては、地域環境や景観との調和にも引き続き配慮が必要であると感じた。
- ・太陽光発電設備の導入にむけては、建物の新築時、増改築時などのタイミングが有効と考えられ、市民や事業者への直接の啓発にとどまらず、関係する地域の経済団体や業界団体とのパイプづくりが求められる。
- ・googl EIE による温室効果ガス量がリアルタイムに駅の目立つ所などに掲示されると肌感覚でとらえられる。

施策⑲自然災害対策の推進（p56）

【評価できる点】

- ・近年の気候変動による災害リスクの高まりを踏まえ、適応策を着実に進めている点が評価できる。
- ・着実に適応策を推進した点は評価できる。
- ・地球温暖化に伴い厳しい暑さを増す夏の暑さに備え、市民の皆さまに熱中症予防行動を適切にとっていただくために、神奈川県気候変動適応センターと連携して、市役所前広場に熱中症を予防するための指標とな

る「暑さ指数」表示板を設置されとことは評価できる。

- ・暑さ指数の表示板は実感するにいいと思う。
- ・ちがさきエコネットや市のHP、広報紙・パネル展示など、多様な媒体を通じて気候変動適応策に関する情報や防災情報を発信されたことは、市民が適切な情報を得られる取組をされたことは評価できる。
- ・多様な手段で情報発信を行い、啓発につなげている。
- ・イベントを用いた情報提供により適応策を定着させようとしている。
- ・ちがさき消防防災フェスティバルと環境フェアの同時開催による、市民への自然災害における気候変動を踏まえた防災についても、自助公助の周知もされたことは評価できる。
- ・関係する庁内各課や事業者などとの連携により広報活動を行っている。

【今後検討すべき課題】

- ・施策指標の達成度が目標と乖離している部分に注目して、それに見合う施策を検討し、実施すべき。
- ・自然災害が多発する昨今だけに、市民の意識が高まっているこのタイミングで実施すべき施策メニューを考案すべき。
- ・適応策によって得られる実質的な効果をどのように測定し、評価するか、検討すべき。
- ・防災対策は継続的な取組が重要であり、市民への周知や関係機関との連携強化を期待したい。
- ・災害が頻発する日本において、災害等が発生した場合、避難所における避難生活の QOR(生活の質・生命の質)の向上についても検討していく必要があると思う。
- ・令和6年、能登半島地震を踏まえた災害対応の在り方について、「スフィア基準」を確認しておくことも重要かと思う。(トイレの確保・管理、食事の質の確保、生活空間の確保、生活水の確保など)
- ・ちがさきエコネットやフェスティバルの閲覧者及び参加者の見える化を行ってほしい。実際にどれくらい市民に認知できているのかを知る為に。
- ・浸水区域の雨水整備を実施したとあるが、昨今の集中豪雨ではどうしても水が溜まる。

施策⑳健康被害対策の推進（p58）

【評価できる点】

- ・自宅でも取り組める、「みどりのカーテン」の普及啓発は、屋内の室温を抑えることで、冷房の使用量も減らせられ省エネにもつながり、取組されていることは評価できる。
- ・WBGT への認知度向上。
- ・昨年、熱中症警戒アラートを30回防災無線で呼びかけ、熱中症対策が浸透、大塚製薬との研修。
- ・大塚製薬株式会社との連携による、熱中症対策研修会開催や専門的な知見を活用した講座を開催したことは評価できる。
- ・クーリングシェルターの事例は、事業者との連携もあり、好例と思われる。
- ・クーリングシェルター(炎天下かけこみスポット)を新たに27か所、市内で合計92か所を開放し、猛暑・酷暑時の避難場所を提供することで、市民の方の熱中症を防止する支援策を図っていることは評価できる(保冷剤も用意されている)。のぼり旗を掲げることで暑さをしのげる場所が分かりやすい。
- ・熱中症対策など気候変動に伴う健康被害への対応を進めていることは重要な取組である。
- ・健康増進課と連携し、熱中症予防の周知・啓発事業に取り組んでいる。

・情報発信から具体的な対策（例：クーリングシェルター）へと積極的に取り組んでいる。

【今後検討すべき課題】

- ・施策指標のうち、事業者の緑化対応の割合をどのように増やすか、検討段階にある。
- ・市民が個人や家族と楽しみながら取り組む実績を、どのように評価するか、そのための方法を検討すべき。
- ・暑さ指数計(WBGT)が複数の場所に設置され、見える化によって、市民への熱中症予防対策に繋がられるようにと思う(予算の関係もあるが)。
- ・数値化することで、暑さを実感できると思う。不快指数など、別の切り口での数字化検討も行ってほしい。
- ・熱中症発生状況のサイトはデータが 2022 年までしか載っていない。
- ・熱中症予防に関する情報発信において、乳幼児・子ども・高齢者への様々な方への配慮も必要があると思う。
- ・クーリングシェルターの開放施設は、年毎に増えてきていることは良いと思う。近年、異常気象により酷暑日が更に懸念され、協力いただける施設・場所については、引き続き増やしていくことも必要と思う。
- ・健康被害対策の実働的なメニューを検討し、クーリングシェルターに加えて実施するものを用意すべき。
- ・公共施設においては、水分補給ができる機能の拡充も、今後、検討してもよいと思う。
- ・異常な高温により、換気の為の窓開けやマスク着用が困難。
- ・高齢者など特に配慮が必要な方々への周知方法について、さらに工夫の余地があると感じた。

目標5 環境に配慮した行動を実践するまち

施策②学校における環境教育の充実（p62）

【評価できる点】

- ・小中学校の環境学習の取組を「スクールアクション」を通じて、各学校における環境教育を共有されていることは評価できる。
- ・出前授業を積極的に(回数も多く)実施している。
- ・出前授業や校外学習の実施や環境フェアへの参加、スクールアクション活動展を開催し、各学校の環境に関する多くの方に見ていただいた取組は評価できる。
- ・小中学生の体験型の環境に関する学習。
- ・関係各課が連携し、ごみの分別・排出等の説明、水質調査、施設見学といった、生徒にとって身近な学習内容を行い、環境への関心を高める授業は評価できる。
- ・学校教育の段階から環境意識を育む取組を進めていることは、将来につながる意義の大きい施策である。
- ・環境学習 News の発行で、先生方に各学校で行っている環境への取組が情報提供され、環境教育を進めていく News の発行は評価できる。
- ・教材開発や教員向け情報提供にコンスタントに取り組んでいる。

【今後検討すべき課題】

- ・「ちがさきエコスクール」のアクセス数が、昨年度より微減している。期末目標まで件数をみると厳しい状況と思う。
- ・出前授業で学んだ知識を、日常生活において行動変容の検証ができればよいと思う。

- ・体験学習が一過性にならないよう年に数回リマインドの機会。
- ・子どもたちが主体的に学べる体験型の取組について、今後も充実が期待される。
- ・未来を担う子ども達に、環境の大切さや地球温暖化対策の取組を継続して実施していく必要があると思う。
- ・受講者の感想を可能な限り集め、出前授業の成果として取りまとめて公開してほしい。
- ・体験学習とオンライン教材をつなぐ手段の検討は重要であり、検討をさらに加速させてもらいたい。

施策②地域における環境学習機会の拡充（p64）

【評価できる点】

- ・環境に関する講座、見学会、観察会の実施は、体験して理解する市民を育てる学習機会を提供しており、よい取組である。
- ・講座や見学会、観察会など、多様な形式で環境学習の機会を行い、関係各課と連携を図り実施されたことは評価できる。
- ・資料編 11 ページのように多くの環境に関する事業をしている
- ・ごみの分別や有料化の効果検証など、日常生活に直結するテーマを取り上げることで、環境問題を自分事として捉え、理解を深めることに繋げられる取組は評価できる。
- ・地域で環境について学べる機会を提供し、市民の理解促進に努めている点が評価できる。
- ・生涯学習の重要性については、一定の理解を促すことができたと思う。
- ・海岸清掃や地域清掃に対し、ごみ袋の配布だけでなく、マイクロプラスチック採取道具の貸し出しを行うなど、市民参加して活動がしやすい様にサポートされ、参加人数も前年度より、1078 人増えたことは評価できる。
- ・市民の「知りたい」気持ちにこたえるべく、手段や教材の工夫を行っている。

【今後検討すべき課題】

- ・施策指標：①②③④は、中間目標に届いていない項目で、期末目標達成（令和 12 年度）に向け、より効果的な普及啓発を検討していかなければならないと思う。
- ・デジタル化も重要だが、現場視察の増加等、実情を知る術がほしい。
- ・講座や見学会、観察会に参加いただいた方々の意見感想など、どのような意識変化や具体的な行動変容に結びついたかという「効果の見える化」の記録など、残しておくのはいかがでしょうか。
- ・環境に関する事業の年間予定を多くの方に見てもらい、可能な事業には参加してもらう。
- ・新規参加を獲得するために、体験者の声を集め、適切に取りまとめて公開し、広報策としてはどうか。
- ・参加者の固定化を防ぎ、若い世代を含む幅広い層の参加促進が課題と感じる。
- ・生涯学習（文化推進課）との連携は望ましいため、この拡充と、生涯学習としての環境学習といったスタイルを確立してほしい。

施策③庁内の環境意識の向上（p66）

【評価できる点】

- ・庁舎内で「エネルギーの見える化」は良い取組。
- ・マイバックの使用率（96%）、マイボトルの使用率（88%）、エコドライブ（94%）といった、職員一人ひとりの行動

の意識が中間目標値（令和 7 年度）を上回って達成されており評価できる。

- ・No Car Dayキャンペーンの実施で、職員の自転車利用促進にて、公用車からの二酸化炭素排出量を削減された取組は評価できる。
- ・職員の積極参画は評価できる。
- ・C-EMS の運用について、外部監査機関による良好事例 12 件を含む監査結果を HP に公表するなど、職員のモチベーション向上につながる取組は評価できる。
- ・公共施設 40 施設への LED 照明導入や、EV 充電設備の設置、新たにオープンした「道の駅湘南ちがさき」で ZEB 認証を取得するなど、市の公共施設の省エネ・創エネを進めていることは評価できる。
- ・職員の環境意識向上に継続的に取り組んでいることは、市全体の環境施策推進の基盤として重要である。
- ・C-EMS を活用し、一貫した環境管理体制を取っている。
- ・庁内会議や職員派遣の制度を活用した、情報交換の取り組み、人材育成の取組を実施している。

【今後検討すべき課題】

- ・庁舎内で「エネルギーの見える化」は、なぜ期間限定なのか。
- ・職員一人ひとりの取組が業務改善や温室効果ガス削減につながっているか、効果の見える化も検討してはどうかと感じた。
- ・市有施設におけるエネルギー消費量が減少傾向にある。省エネ行動や運用改善によって、実際にどれだけのコスト削減や CO₂削減に繋がったのかを、職員が実感できるように、グラフの掲示（見える化）など、月別で省エネや節電への意識付けが有効的かと思う。
- ・環境改善が一般化してきているがゆえに、マンネリ化を防ぎつつ、意識から実践へと一歩を踏み出す教育システムの検討を加速させてほしい。
- ・庁内で実施し、成果が出ているものを市民に向けて積極的に公開してほしい。
- ・今後も、維持活動して頂ければと思う。

施策④環境に配慮した活動への支援（p68）

【評価できる点】

- ・市民団体や事業者の環境活動を後押ししており、協働による取組が進められている点は評価できる。
- ・市民活動の広報の支援、とくに、市が市民に届くようにサポートして情報を発信している。
- ・環境活動の裾野を広げるべく、（海岸線整備活動の）ボランティア募集をおこなった。
- ・「ちがさき環境フェア」において、9つの市民活動団体が日頃の活動を情報発信されたことは評価できる。
- ・市民団体イベントの後援や環境測定機器の貸し出しは良いことだと思う。
- ・測定機器貸し出しにより、市民が主体的に参加できる機会がもてることは評価できる。
- ・騒音計や振動計、水質測定のパックテスト貸し出しにて、市民が数値によって環境の現状を把握できる機会を行ったことは評価できる。
- ・「脱炭素ポータルサイト」の発信や、2市1町（茅ヶ崎市・藤沢市・寒川町）広域連携による、中小企業向けに情報提供やワークショップを実施したことは評価できる。
- ・湘南エコウェーブをもっと活性化してはどうか。

- ・自然環境評価調査において、市民調査員による指標種の確認（エビネ・ホタルブクロ・ヤマユリ）できたことは評価できる。

【今後検討すべき課題】

- ・施策指標①市が広報した市民等の主催による環境活動数が、中間目標67件に対し現状46件と、やや伸び悩んでいる。数値が減っている原因について確認する必要があると思う。
- ・ホームページ等に偏りがちな情報発信を改善する方法として、SNS（Instagram）の活用に加え、地域市民の方が目に触れる、地域の掲示板・回覧板などを検討することもあると思う。（回覧には時間はかかるが）
- ・自治体が市民活動について広報することで広がる信頼感、安心感を意識して、ひきつづき積極的に広報の支援を行ってほしい。
- ・市民主催の環境活動数が伸びない。記載の通り HP に偏った情報発信。
- ・活動の担い手不足や高齢化なども見据え、新たな参加者の確保が重要になると感じる。
- ・それぞれの市民活動の利点を環境保全の効果として測定し、評価する手段の構築にむけて検討してほしい。
- ・今後の展開を静観視しているところで、具体的には、結果が出てからのコメントとしたいと思う。

施策⑤環境に関する情報の発信（p70）**【評価できる点】**

- ・ちがさき環境フェアにおいて、3,500 人という多くの来場者があり、来場いただいた市民の方が環境について学べる企画に参加され、参加団体も体験型イベント・日頃の環境活動の成果を発信するなど良い取組をされたことは評価できる。
- ・環境イベントを通じて、体験型プログラムを提供して、市民の環境理解を促している。
- ・環境フェアに3,500 人の来場があった点（防災フェスティバルは 1 万人）。
- ・ちがさきエコネットのアクセス数が、昨年（72,004 回）から 122,950 回へと飛躍的に伸びている。市 LINE セグメント配信や Instagram を活用し発信されたことは評価できる。
- ・昨年度より、Instagram での環境の取組を画像・動画を用いて旬の情報など、分かりやすく発信されたことは評価できる。
- ・広報シティプロモーション課と連携し、各媒体を活用して情報発信を行ったり、HP の内容の見直しを進め、分かりやすいようにされたことは評価できる。
- ・環境情報を継続して発信し、市民への普及啓発に取り組んでいる点が評価できる。
- ・多様なメディアを用い、ターゲットを想定した情報発信を継続的に行っている。
- ・市民の意見を計画に反映した点は評価できる。

【今後検討すべき課題】

- ・様々な取組を行っていることは評価できるが、成果（本文に書かれているが）そのものの可能性を検討していただければと思う。

- ・情報発信の機会は増えている一方で、必要な情報をより多くの市民に届ける工夫が引き続き必要と感じた。
- ・情報発信の成果は評価が難しいが、施策指標の目標を達成したらどの程度の環境保全効果があるのかを明確にし、わかりやすい成果の取りまとめにつなげるべく努力してほしい。
- ・情報発信により集まった参加者の感想を聞き、適切に取りまとめて今後の取組につなげる作業ルーティーンを整備してほしい。
- ・R8年度は、残念ながら消防防災フェスティバルとの同時開催がないため、来場者数が懸念される。環境フェアの更なる企画周知も、SNS・Instagram・各媒体を通じて来場者数につなげる方法も検討する必要があると思う。
- ・茅ヶ崎市 LINE 登録者 61 千人中で何人が「環境・自然」に登録しているか。
- ・ちがさきエコネットのアクセス数も増えており、小学生高学年から中学生（学校との連携）、Z世代からもアクセスしてみよう！と思うような意識が増えてくると良いと思う。